

新刊

紹介

Book

Review

創薬研究者必見！  
最新トランスポーター  
研究 2009

杉山雄一，金井好克 編集

メディカルドゥ／B5・276頁・5,600円

近年，トランスポーター研究は急速な進歩を遂げ，創薬研究者には薬物動態や安全性を理解する上で必須の情報となり，薬効の標的としても大変魅力がある．この日進月歩の研究領域を総括して理解したいと思っていた矢先に，その要望に応じてくれる1冊が誕生した．本書はトランスポーター研究に携わる最前線の先生方が，最新の知見を大変分かりや

すくまとめてくれている．

内容は，総論と5章の各論で構成され，総論では薬物動態や薬効標的に関する全体像，各論では，1章のトランスポーター研究の基礎で，その種類・構造と機能，2章のトランスポートソームの概念では，その概念と膜輸送の重要性，相互作用するタンパク質とその破綻に関連した疾患について記載されている．3章のトランスポーターの発現抑制では，関連遺伝子の転写調節とエピジェネティック調節，4章の動態における薬物トランスポーターの役割では，肝臓，消化管，腎臓，血液脳関門などの種々の組織における役割，薬物間相互作用，薬物毒性，さらに企業

での研究についても言及されている．5章の薬効標的としてのトランスポーターでは，セロトニンあるいはグルタミン酸トランスポーターと精神神経疾患，糖，その他の疾患に関連する話題が満載されている．

本書は創薬研究者にはもちろんのこと，学部生，大学院生にも理解しやすく書かれている．トランスポーター研究の最前線が実感できる内容となっており，是非，興味のある方々に読んでいただきたい．

山田久陽 Hisacharu YAMADA

※本書は，日本薬学会「薬学情報コーナー」で閲覧できます．